

VI 研究

1. 【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」の例示を参考にして過去 3 ヶ年の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述。なお、教員個人の研究業績書を訪問調査の際に準備。

専任教員の研究実績状況は平成 17 年度著書 9、論文数 12、学会発表 16、作品発表 3、演奏会への出演 28 であった。(本学『研究紀要』(第 38 号)に基づく掲載数。)

※専任教員の研究実績表は、省略。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際に準備。

教員の研究活動状況は、毎年 1 回発行する『仁愛女子短期大学研究紀要』(以下、「研究紀要」という。)に掲載している。また、研究紀要の巻末に「仁愛女子短期大学研究成果一覧」を設け、本学教員が紀要以外で発表したものを「著書」、「口頭発表」、「講演」、「作品発表」、「演奏会への出演等」に分類し掲載している。

なお、研究紀要は毎年県内の高校、全国の関係大学及び公共の図書館等に配布している。

(3) 過去 3 ヶ年の科研費の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況を一覧表にすること。

①平成 15 年～17 年度 科研費の申請件数(採択件数)表

申請区分	15 年度申請 (16 年度科研費)	16 年度申請 (17 年度科研費)	17 年度申請 (18 年度科研費)
若手研究 B	2 (0)	1 (0)	0
基盤研究 C	0	1 (0)	0
計	2 (0)	2 (0)	0

②平成 15 年～17 年度 外部からの研究資金調達状況表

年度	件名	相手先	金額 (単位:円)
15	学校給食における地場産食材使用量調査	福井県	600,000
	県民健康・栄養調査における栄養摂取状況調査及び生活習慣基本調査入力業務	福井県	204,750
16	ふくい産学官共同研究推進補助事業研究委託	三里浜特産農業協同組合	300,000
	学校給食における地場産食材使用量調査	福井県	600,000
	ホームページ制作	ナレッジふくい	210,000
17	食品摂取頻度・摂取量調査	(独)国立健康・栄養研究所	2,300,000
	福井県農業試験場との農林水産業者等提案型共同研究事業「ラッキョウフルクタンの糖負荷試験」	福井県農業試験場	150,000

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、当該短期大学もしくは当該学科等の教育に係る研究の状況について記述。

生活科学学科では、食品・栄養・調理担当教員は、平成 15 年度から平成 17 年度にわたる財団法人福井県産業支援センター「戦略的地域産学官共同研究促進事業」調査に基づく産業技術研究センター・プロジェクト研究推進「ラッキョウフルクタン高度利用研究会」の支援及び三国町三里浜特産農業協同組合との共同研究により「福井県特産物ラッキョウの食品・栄養・調理科学的性質と特性に関する研究」を広範囲に調査・研究した。その成果は、平成 17 年度の各自の所属学会で発表した。研究論文の一部は、研究紀要第 38 号（2006 年 3 月発行）にも掲載された。また、食品・栄養・調理担当教員は、平成 17 年度仁愛女子短期大学共同研究助成及び福井県農林水産部の支援により「福井県のご飯の食物摂取構造に関する研究」に関して広範囲に調査・研究した。その成果は、各年度の各自の所属学会で発表した。

幼児教育学科では、私立大学教育研究高度化推進特別補助を受けているプロジェクトが、2 つある。これは幼児教育学科生を対象にした研究・教育プロジェクトであり、ひとつは「短期大学における道徳的環境教育の取り組み」であり、他は「幼児の読書環境に対応したストーリーテラーとしての保育者養成」である。また、本学科が幹事として全国保育士養成協議会中部ブロックセミナー（11 月 24、25 日）を開催し、「変動期における保育士養成のあり方」について研修した。

音楽学科では、過去 3 ヶ年間の研究活動の主たるものは、各教員の専門領域に於けるソロ(独奏)中心によるリサイタル等の開催と発表(出演と出展)である。これらは各教員の担当する授業内容と密接に結びついており、毎年継続したこれらの研究活動は教員の資質向上にとって不可欠のものとなっている。

2. 【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度等が記載されているもの）を整備していれば訪問調査の際に示す。なお規程等を整備していない場合は、過去 3 ヶ年の決算書から研究に係る経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等）ごとに抽出し一覧表にする。

研究費についての支給規程は整備されている。（訪問調査の際に示す。）

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明。なお過去 3 ヶ年の研究紀要・論文集を訪問調査の際に準備。

教員の研究成果は研究活動委員会が中心となって毎年 1 回発行している研究紀要に投稿し、発表することができる。また、教員の授業担当科目に関する研究、担当科目の教育実践やその結果については FD 委員会と連携して学内発表を行っている。

なお、学校法人福井仁愛学園後援会の「研究成果発表経費助成制度」が設けられており、平成 17 年度においては、その制度を利用して 3 件の研究成果の発表があった。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、前年度の決算よりその支出状況を記述。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明。

[平成 17 年度教員の研究にかかる機器、備品、図書等の整備状況]

区 分	内 訳	金 額	主な機器備品
個人研究費	機器備品	633,470 円	デスクトップパソコン
	図 書	1,761,610 円	ノート型パソコン、ビデオカメラ ワイヤレススピーカー、知能検査システム
共同研究費	機器備品	508,200 円	Mac パソコン、脳波測定システム
	図 書	0 円	

(4) 教員の教員室、研究室または研修室等の状況を記述。なお訪問調査の際に研究室を案内。

教員は個室の研究室を持ち、さらに実験系の研究室には実験できるスペースが広く確保され、研究活動に役立っている。なお、研究専用の実験室等は設置されていないが、教育研究活動のため施設設備は使用できることとなっている。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述。

教員は就業規則及び同細則により、週 1 日以内の研修日を求めることが出来る。また、研修時間は研修日以外に特に必要とする場合に取得することが出来ることとなっているので、研究時間は確保されている。

3. 【特記事項について】

(1) この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力している事項があれば記述。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点の求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述。

特になし。